

事業番号 2022 - 文科 - 新22 - 0019

令和4年度行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	先端的スポーツ医科学研究推進事業			担当部局庁	スポーツ庁		作成責任者		
事業開始年度	令和4年度	事業終了 (予定) 年度	令和8年度	担当課室	競技スポーツ課		競技スポーツ課長 西川 由香		
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	第3期スポーツ基本計画(令和4年3月25日策定) 「持続可能な国際競技力向上プラン」(令和3年12月27日ス ポーツ庁策定)				
主要政策・施策	-			主要経費	文教及び科学振興				
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度以 内)	我が国のアスリートの競技力向上のため、最先端の「医学分野」、「情報分野」、「工学分野」等でのスポーツ医科学研究を推進すべく、先端的な研究を実施するとともに、次世代の中核を担う若手研究者を輩出する体制を整える。								
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	スポーツにおける「医学」、「情報」、「工学」に関する先端的な研究を実施するとともに、次世代の中核を担う若手研究者の育成を行う機関を「先端的スポーツ医科学研究拠点」として指定し、ハイパフォーマンススポーツセンターと連携してスポーツ医科学研究を推進する。 事業の実施にあたっては、①先端的な研究等の推進、②HPSCとの連携(競技現場の実情やニーズ把握、競技現場への実装、HPSCとの共同研究等)、③若手研究者の育成を推進する。								
実施方法	委託・請負								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の状 況	当初予算	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	0	0	0	150	150		
	執行額	0	0	0					
	執行率(%)	-	-	-					
当初予算+補正予算に対す る執行額の割合(%)	-	-	-						
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由					
	スポーツ医・科学研究支援 等委託費	150	150						
	計	150	150						
活動内容 (アクティビ ティ)	大学等研究機関においてスポーツにおける先端的な「医学分野」、「情報分野」、「工学分野」等の研究を行い、 スポーツ医科学の推進を行う。								
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込
	「医学」、「情報」、「工学」の 分野においてスポーツに関 する先端的な研究の実施	先端的な研究のテーマ数	活動実績	件	-	-	-	-	-
単位当たり コスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	先端的スポーツ医科学研究拠点推進事業執行額/拠点 数		単位当たり コスト	円	-	-	-	50,100,000	
			計算式	円/拠点	-	-	-	150,300,000/3	
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 6 年度	目標最終年度 8 年度
	先端的な研究を用いた、 競技力の向上	HPSCから競技団体へ活用 された数	成果実績	件	-	-	-	-	-
			目標値	件	-	-	-	6	9
			達成度	%	-	-	-	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	第3期スポーツ基本計画(令和4年3月25日策定)								

活動内容 (アクティビティ)		スポーツに関する先端的な研究を行い、次世代の中核を担う若手研究者の育成を行う								
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込	
	拠点の特性を生かした若手研究者の育成	若手研究者の育成プログラム数	活動実績	件	-	-	-	-	-	
			当初見込み	件	-	-	-	6	6	
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	先端的スポーツ医科学研究拠点推進事業執行額/拠点数	単位当たりコスト		円	-	-	-	50,100,000		
		計算式		円/拠点	-	-	-	150,300,000/3		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 6年度	目標最終年度 8年度	
	次世代のスポーツ科学研究の中核を担う若手研究者が育成されること	本事業の若手研究者育成プログラムで育成される若手研究者の人数(※人数は3拠点の延べ人数を記載)	成果実績	%	-	-	-	-	-	
			目標値	%	-	-	-	15	30	
			達成度	%	-	-	-	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	第3期スポーツ基本計画(令和4年3月25日策定)									
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策評価	政策	11 スポーツの振興							
		施策	11-3 国際競技力の向上に向けた強力で持続可能な人材育成や環境整備	政策評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221012-mxt_kanseisk01-000024706-08.pdf					
			該当箇所	施策目標11-3-3						
	取組事項	分野:	-							
		(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:	-							
	該当箇所	-								

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	第3期スポーツ基本計画において「スポーツ医・科学、技術開発、情報等による多面的で高度な支援の充実」の必要性が明記されており、政策の優先度は極めて高い。 また、トップアスリートの活躍は、国民に誇りと喜び、夢と感動などをもたらすものであるため、国際競技力の向上に資する本事業は、広く国民のニーズがある事業である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業は、国主導でスポーツと異分野の融合による先端的な研究に取り組む研究拠点を形成することにより、我が国の競技力向上に貢献するとともに、次世代の中核を担う若手研究者の育成等を推進する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	第3期スポーツ基本計画において「スポーツ医・科学、技術開発、情報等による多面的で高度な支援の充実」の必要性が明記されており、政策の優先度は極めて高い。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	支出(委託)先の選定にあたっては、十分な期間を確保した上で公募を実施し、競争性を確保することとしている。また、契約に当たっては、受益者との負担関係や事業経費の費目・使途の内容を適正にするために精査するなど、その必要性や妥当性について適切にチェックを行っている。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	スポーツと多様な学術分野の融合による独創的で革新的な研究に取り組む研究拠点の形成や、次世代の中核を担う若手研究者の育成は、国主導で進める必要があることから、国が費用負担を負うことが妥当である。なお、契約に当たっては、事業経費の費目・使途の内容を適正にするために精査するなど、その必要性や妥当性について適切にチェックを行っている。□
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	契約に当たっては、事業経費の費目・使途の内容を厳正に審査し、前年度の執行率も確認するなど、経費の必要性や妥当性について適切にチェックを行っている。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	事業経費の費目・使途の内容を厳正に審査し、前年度の稼働率も確認するなど、その必要性や合理性について適切にチェックを行っている。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	事業経費の費目・使途を厳正に審査した上で、契約締結及び委託費の額の確定を行うとともに、定期的なミーティング等により、使途等の妥当性について適切にチェックを行っている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	契約締結及び額の確定に当たっては、事業経費の費目・使途の内容を精査するなど、経費の適切な執行や効率化に努めている。□	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	成果目標については第3期スポーツ基本計画や実施機関の計画等から設定等を行い、若手研究者の人数等、成果実績が成果目標に見合ったものとなるように努めている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	本事業は、競争性支出(委託)先の選定にあたって、人材・施設・カリキュラムが整備されていること等を精査することで、効果的及び低コストで実施できるように努めている。□
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	本事業の活動は、国際競技力向上に向けて着実に進捗している。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	JISSとの大学との連携協定が締結され、これまで実施してきた研究が競技力向上に活用され始め、若手研究者の育成も大学内のカリキュラムとして継続して取り組まれている。
関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	-	
事業番号		事業名	

点検・改善結果	点検結果	本事業は限られた予算の範囲内で、いかに効率的に独創的で革新的な研究・次世代を担う若手研究者の育成を行うかが課題となっていた。		
	改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・JISSとの共同研究契約を締結していき、研究の継続はもとより、その他の研究テーマについても継続して研究成果をあげる必要がある。 ・研究と同様に若手研究者の育成も継続して行っていく必要がある。 ・パラアスリートの研究については継続して研究していく必要がある。 		
外部有識者の所見				
外部有識者による点検対象外				
行政事業レビュー推進チームの所見				
事業の実施状況等を踏まえ、適切なアウトカムの設定について不断の見直しを図ること。引き続き事業の着実な実施及び適切な予算執行に努めること。				
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況				
本事業は先端的研究の推進を進めることによる国際競技力の向上、研究に従事する若手研究者の育成を行い継続的に先端的研究を行える人材を輩出できる環境を整備することを目的とし、アウトカムの設定をしている。所見を踏まえ事業の着実な実施及び適切な予算執行に努める。				
備考				
関連する過去のレビューシートの事業番号				
平成23年度				
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				
平成28年度				
平成29年度				
平成30年度				
令和元年度				
令和2年度	文部科学省			
令和3年度	2021 文科 新22 0028			

